トヨタ財団　助成対象者向け

オンライン カフェ ミーティング

2022年
6－8月

飲食自由。ランチやコーヒーを片手にお集まりください。

日程	テーマ / 話題提供者	申込締切
6/16（木）12:00～13:00	**日本とカンボジアの教育者、及びプロジェクトメンバーの葛藤と変化 ～ 2020年度トヨタ国際助成金プログラム 1年半の歩み ～** ▶日本とカンボジアにおけるグローバル社会課題を通じた教育リーダー育成事業」についてご紹介。国や役職、年齢の異なる者同士が集まり、交流を通じて向き合った個々の葛藤や変容、リーダーシップにおける学びについてお話したいと思います。 国際助成P **青木 健太**（SALASUSU共同代表/CEO/理事長）**※カンボジアから参加** **橋本沙耶加**（SALASUSUツアー事業部マネジャー） D20-N-0101：日本とカンボジアにおけるグローバル社会課題を通じたソフトスキル教育を牽引する教育リーダー育成事業	6/9（木）
7/11（月）12:00～13:00	**社会の「自然離れ」はなぜ問題なのか？** ▶都市化や生活様式の変化に伴い、私たちが自然とふれあう頻度は減少の一途を辿っています。本ミーティングでは、こうした現代社会に蔓延する「自然離れ」が人の健康・幸福や生態系保全に与える影響を紹介し、その問題点を議論したいと思います。 研究助成P **曽我 昌史**（東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授） D19-R-0102：自然と関わる「経験の消失スパイラル」 ―全国スケールの実態解明と適応策の提案	7/4（月）
7/22（金）12:00～13:00	**自宅にて、「もの」との関係を考える―道具性を超えて** ▶私たちの自宅にはさまざまな「もの」が集積しています。さしあたって生活の用を足すための道具として自宅に迎え入れられた「もの」は、しかししばしば、ただ便利なもの以上の存在になり得ます。これまでのリサーチとワークショップから、「もの」と「わたし」の道具性を超えた関係について考察します。 研究助成P **松山 聖央**（武庫川女子大学生活美学研究所 嘱託助手） D21-R-0092：ヒトとモノの承認関係を手がかりとする「自宅」環境の包括的研究 ―環境美学、建築・都市計画論、芸術実践の融合的アプローチから	7/15（金）
8/4（木）12:00～13:00	**いくつになっても"動くを楽しむ"ことができる社会を目指して 地域福祉の観点から、寄り添いのあり方を考える** ▶人やモノの移動だけでなく、心が動くことも地域のモビリティを考えるポイントです。地域での移動の支援の実践を通じて学んだ、モビリティとコミュニティの関係性から「動くを楽しむ」社会を考えたいと思います。 国内助成P **猪田 有弥**（にしあわくらモビリティプロジェクト代表／社会福祉士） D19-L-0154：村民の"動くを楽しむ"をサポートする、にしあわくらモビリティセンターの立ち上げ D18-LR-0059：過疎地域で賢く移動する ―日本初モビリティセンター設立への調査研究	7/28（木）
8/9（火）12:00～13:00	**AIが主体性を発揮している（ように見える）ことの意味を考える** ▶人工知能（AI）は人間の製作物でありながら，ある種の「主体性」を発揮しているかのようにふるまうことがある。こうした「人工主体」の登場によって，私たちは「主体性」についての従来の考え方を問い直すことになるかもしれない。本ミーティングでは，人工主体の存在が人間の行為や思考にいかなる影響を与えうるのかを議論したいと思います。 先端技術 **宮原 克典**（北海道大学人間知・脳・AI研究教育センター 特任講師） D21-ST-0012：人間と人工主体の共存のあるべき姿を学際的に問うための新たな枠組み「人工主体学」の構築に向けて	8/2（火）

対象者 **2018年度以降の助成期間中の助成対象者**
代表者以外のプロジェクトメンバーも参加可能。

定員 **1回あたり5～6名**
希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。

申込 https://forms.gle/CxzufJ6QsXRrzLKj6
参加者の方には、追ってZoomのURL等をご連絡いたします。

公益財団法人トヨタ財団
研究助成プログラム
特定課題「先端技術と共創する新たな人間社会」
MAIL kenj@toyotafound.or.jp